



# グラスミックス

駐車場スペースの芝生植栽において、従来の芝生保護材等では、樹脂の劣化や破損によって、良好な緑を維持することが困難でした。さらに芝生保護材等では、芝生が衰退すると突起物が目立ち、歩行や運動に適さない芝生舗装となっていました。これでは本来の芝生駐車場に求められる効果(安定強度・緑地面の確保・景観形成等)を得ることはできません。

このようなケースは舗装面などを作る土木工事(固める)と、緑地面を作る緑化工事(緩める)の求める機能が相反するために発生します。土木的基盤条件の中で緑化土壌条件の質と量をいかに両立させ、良好に保つかが豊かな緑創りのポイントとなります。



写真1  
消防車乗り入れ試験(グラスミックス敷き均し後)

## 【グラスミックス工法】

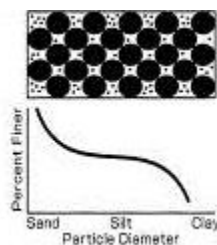
グラスミックス工法は、ストラクチャル・ソイル・ミックス工法(日本造園学会1997三谷康彦氏)の理論を取り入れ、駐車場として十分な締め固め強度を有し、且つ芝生の発根促進を促す芝生舗装工法です。これは大粒径の粒子が転圧に耐えうる骨組みを形成し、そのスペースに細かい粒子を押し入れることで転圧のかからない土壌空間を確保し、根の伸長できる有効土層域を作り出す工法です。この工法によって芝生の生育を促すことが可能となります。

本工法における植栽基盤材(人工基盤土壌)が《グラスミックス》であり、芝生舗装の基盤材として土壌物性および土壌養分性ともに優れた資材となっております。



【グラスミックス製品写真】

(グラスミックスの概念)  
・強度のある大粒径素材と生育を促す小粒径素材が混合。



(特徴)

- ① 転圧をかけても気相が確保されます。
- ② 植栽の根系伸長エリアを確保します。
- ③ 骨格素材が多孔質であるため、表層保水機能を有します。

(品質)

- \* 95%修正CBR値 20%以上
- \* pH 4.5~8.0
- \* 透水係数  $1 \times 10^{-5} \text{m/sec}$ 以上
- \* 養分性 NPKの主養分を中心に配合



碎石路盤上にグラスミックスを150mm厚で敷均し後、重機で転圧。



締め固め度 95%以上(最大乾燥密度に対する、現場で測定した乾燥密度の割合)で転圧をしたグラスミックス基盤に、直接芝生を植栽。



施工後3ヶ月の状況。すでにランナーが出ていて、生育は良好。



施工後2年の状況。